

中国の生物資源 複数DB一度に検索 阪大などグリッド技術活用

大阪大学サイバーメディアセンターは24日、バイオリサーチ用のグリッドコンピューティング研究基盤構築の一環として、中国科学院微生物研究所と共同で、中国の保有する固有の生物種や生物標本に関する生物資源データベース(DB)を検索できるシステムを開発したと発表した。

分散するデータ資源や計算資源などが共有可能になる。将来的には個々のDBにアクセスすることなく、1回のアクセスでグリッドに参加する複数のDBを調べることができ、核酸やアミノ酸配列の相同性検索などが効率的になり、新薬開発などに役立つものと期待される。

今回のグリッド研究基盤のコア技術は阪大サイバーメディアセンターが開発。通信路暗号化機能による安全性や複雑なグリッドシステムを隠してユーザーの高い利便性を実現。次世代インターネット・プロトコルIPv6へも対応する。グリッドコンピューティングはネットワークに接続されているコンピュータなどを共有して、一つの仮想的なコンピュータとして利用する形態。

分散するデータ資源や計算資源などが共有可能になる。将来的には個々のDBにアクセスすることなく、1回のアクセスでグリッドに参加する複数のDBを調べることができ、核酸やアミノ酸配列の相同性検索などが効率的になり、新薬開発などに役立つものと期待